



進 隅 廉 題字

部長退任にあたり

政治経済学部教授 BN 1000 長峰 章

来たる三月末日をもってワンダーフォーゲル部の部長を退任することになりました。二十七年間の長きにわたり部長をさせていただいたことには感謝の念しか思い浮かびません。また、去る十一月二十四日には、私のためにあのように盛大な部長退任の送別会を開いていただいていたありがとうございました。この場を借りてお礼を述べさせて頂きます。感謝と感激の気持ちを抑えきれませんでした。

思い返すと、部長就任当初監督は鈴木善次郎氏（善さん）でした。最初に参加した夏合宿は九州の鹿児島県のベースキャンプで、その時のことは今でも忘れられません。沢山の部員が班ごとに隊列を組んでキャンプ地めざして集まって来るのを高台から眺めた光景は壮観でした。次の年は北海道での夏合宿でした。善さんとワンゲルOB二人と私は合宿地に合流する前に、北海道の西側を北上するバス旅

第 58 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

行をしました。善さんのバ
イタリテイに驚かされた思
い出多い旅行でした。その
後合宿に参加し、部員に同
行して高い山に登り、膝を
痛めてやっとの思いで下山
した苦く楽しい思い出もあ
ります。

忘れてはならないことも

あります。一九九五年の合宿中に、滑落事故で堀井くんが亡くなりました。奇しくも平成三十年の夏合宿は堀井くんの地元富山で行われました。ベースキャンプ地は堀井くんのおじいさんが生まれ育った場所でした。何かの縁を感じました。墓前で今後の安全なワンデルングを誓ってきました。

最後になりましたが、四月からは政経学部の後輩の高橋信勝先生が部長を引き受けてくれました。皆さんには新部長への御支援を宜しくお願いします。長い間ありがとうございました。

みえざる絆に感謝して

政治経済学部教授 BN 1200 高橋 信勝

政治経済学部の高橋です。このたび2019年4月より、ワンダーフォーゲル部部長に就任することになりました。現任の部長長峰章先生と私は「経済学史」を専攻しておりますが、ともに政治経済学部中興の祖である

今は亡き関末代策教授の孫弟子にあたります。関先生は、ワンダーフォーゲル部の生みの親である商学部の春日井薫先生とは義兄弟であつたと聞いております。関先生は第二次世界大戦後の明治大学の再建のために、春日井先生と一緒にまさしく東奔西走され、明治大学で退職後は春日井先生の願いを受けて和光大学の創設に尽力され、和光大学初代経済学部部長を長きにわたって務められました。

関先生と春日井先生の刎頸の交わりについては、渡欧中の関先生が春日井先生宛に送った海外便りの文中から窺うことができます。関先生は、便りのなかでK君と呼ぶ春日井先生に、イギリスを「君の故郷」であると語りかけたあと、その田園風景の美しさを次のように描写しております。「5月18日の朝。途中から雨になったので、一面に続く野原や、軟かいカーブの丘は、緑りが流れるように美しく、田舎の娘のスカートを染めはせぬかと疑はれるばかりであつた。その間に、メイトリー（may tree）が雪のように白く咲きみだれてゐる」（『政経論叢』第1巻第3号、1926年10月）。関先生は、アダム・スミスの足跡を追ってロンドンからスコットランドへ赴く途中、たまたま目にしたイギリスの国土のありのままの美についての感想を上のように記されました。私は、国や場所を問わず、時代を問わず、「自然の美しさ」をそのままに心象として焼き付け、讃嘆することに強い共感を覚えてなりません。

『六十年のあゆみ』（明治大学体育会ワンダーフォーゲル部、1997年）を紐ときますと、1926年に留学を終えられた春日井先生がワンダーフォーゲル部の前身「駿台あるこう会」を始められたのが1928年、ワンダーフォーゲル部を創設されたのが1936年でした。春日井先生が当初めざされたのは、結核の病に倒れる人びとが少なからぬ時代に、大学生の体力の向上を図るべく、自然の山野の道ならぬ道を歩くことであつたに違いありません。これに加えて、『六十年のあゆみ』のなかで私が興味深く拝読いたしましたのは、春日井先生が単にからだの問題を越えて、『綱領』に示されているように精神の涵養をも同時に追求されたことです。私は、この春日井先生のワンダーフォーゲル部に期待したこと、その実現をめざしたことに、同じく大学人として強く共感いたします。綱領の「我等の国土を遍歴して美しき自然に親しまん」との言説に触れたとき、私の脳裏には、春日井先生宛の関先生の便りの一節が鮮やかに蘇りました。綱領は「美しき自然の観照」とならんで、「祖国愛」、「友愛と協同の精神」、「スポーツ精神」の重要さを説く点で、ワンダーフォーゲルの活動に門外漢である私のような者にも、その目的を余すところなく伝えております。

今回、「みえざる絆」に導かれてワンダーフォーゲル部の部長を務めさせていただくことになりました。ワンダーフォーゲル部創設

者の春日井先生と関先生とのひとかたならぬ交友関係に思いを馳せるなかで、ワンダーフォーゲル部と私との絆に因縁めいたものを感じたしいです。長峰章先生や「なため会」の皆さま方のお力、「みえざる絆」を「みえる

絆」にして下さったお力に改めて感謝申し上げます。今後のワンダーフォーゲル部の運営につきましては、これまで以上に監督、コーチ陣、なため会との連携を密にすることはもちろん、人命第一主義のもと「綱領」の着実な実践をめざす所存です。なため会の会員諸賢におかれましては、ワンダーフォーゲル部のさらなる発展、引いては明治大学の発展につきまして、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



長峰先生（中央） 高橋先生（右） 諏訪本監督（左）

長峰章先生に感謝

BN 532 会長 鈴木 正彦

長峰部長先生、ワンダーフォーゲル部の部長を27年間の長きに亘りお引き受けいただき、誠にありがとうございます。

振り返りますと、初代部長の春日井薫先生（No.1）は昭和11年より13年間、二代目の木下勇先生は昭和25年より19年間、三代目・藤井耕一先生は昭和45年より6年間、四代目・杉浦忠夫先生は昭和52年より5年間、五代目・坂本清先生は昭和58年より9年間、六代目の長峰章先生は平成4年より27年間ということ、ケタ外れた長さであります。

27年の間には色々な出来事があったことと思いますが、我々にとっても忘れることのできない出来事と言いますと、平成7年から1年間長峰先生がイギリスのマンチェスター大学に在外研究に行かれていた時のことです。

新田功先生が部長代行を務められていましたが、毎年行われている日中慶明四大学合同ワンデルングが10月19日から谷川連峰で行われ、4パーティのうち日大パーティに属していた明大2年部員の堀井正君が茂倉新道を下山中に、急な斜面で滑落して死亡した出来事です。

新田先生は事故報告書に以下のように記されています。「1995年10月21日、茂倉岳を下山中の堀井君は誤って斜面を滑落し、帰らぬ人となった。富山県有数の進学校富山高校が

ら指定校推薦で明治大学商学部に入學し、2年次に在学中であった堀井君は、やり残したことがたくさんあったに違いない。酒を酌み交わしながら夜を徹して友と語り、恋に胸をときめかせ、また、好きな山を次々と制覇していくこと……。残念ながら堀井君はこうした人生の喜び楽しみを味わうことができなくなっていました。(中略)堀井君を失い、同行した青木君も長期間の入院生活を余儀なくされたこの四大学合同ワンデルングでの事故は、60年の歴史を刻んできた明治大学ワンダーフォーゲル部における最大の不幸事である。部に関わるすべての者が今回の事故を深く反省し、もう一度原点に立ち返って部のあり方を考え直す必要があることを痛感している。このような事故が2度と起こらないように、現役部員とOBが丸となって対応策を検討中である。謹んで堀井君のご冥福をお祈りする。(後略)

以上の通り、山での事故は周囲に大変な影響を及ぼします。

幸い、この事故以来、大きな事故は起きていませんが、それは長峰先生のご尽力のお陰だと信じております。

長峰先生、長い間、本当にありがとうございました。

「長峰部長先生に感謝する会」の報告

BN 835 幹事長 猪狩 稔

平成30年11月24日に、明治大学紫紺館4階

パーティールームにて、「長峰部長先生に感謝する会」を盛大に開催することができまして、長峰章部長先生、高橋信勝副部長先生をはじめとして、参加された会員の皆様、そして現役諸君に心より御礼を申し上げます。

平成4年4月に就任以来、27年間もの長きに亘り部長の重責を務められた長峰先生には、部としてそしてOB会として、是非とも感謝の気持ちを伝えようとの思いのもと、本年度のなため会の最大のイベントと位置付けて、年初来準備を進めてきました。基本方針として、何よりも長峰部長先生に喜んでもらうこと、そしてなるべく多くの会員に参加してもらうことを心がけました。なため会としては、手厚く予算面の手当てをすると共に、準備活動に携わるメンバーを選任し、現役部員及びコーチと協働して緻密な準備をしました。多くの会員に参加してもらう観点では、長峰先生の在任が平成4年以降のこととで、現役時代に長峰先生にお世話になった平成世代をなるべく呼び込むべく集客活動に取り組みました。Facebookやメルマガといった若い世代に向けたメッセージを活用すると共に、各年代のキーパーソンに個別に連絡等を取ることで地道な集客活動を進めた結果、30名を超える平成世代の参加が得られたことは今後のなため会の活動にとっても有意義であったと思います。また、会そのものを盛り上げる観点では、長峰部長先生にそして来年4月以降に部長に就任される高橋副部長

先生に楽しんでもらうことは当然として、会の参加者にも楽しんでもらうことに意を尽きました。長峰部長先生のイベントとしては、長峰先生の明るく気さくなお人柄を存分に知ってもらおうと共に、人生の歩みなども振り返ってもらおうと、「あきらの履歴書」なるインタビュ形式のイベントを企画しました。とある新聞社の〇〇の履歴書をもじったわけですが、長峰先生の率直かつ赤裸々な回答もあり盛り上がったのではないのでしょうか。また、高橋副部長先生には、スピーチをお願いすると共に、なため会のシンボルでもあるバックルを贈呈させてもらいました。そして会のはじめと歓談中には、スライドを流すことで、我が部の長い歴史を感じる草創期、草津小屋時代、奥鬼怒山荘建設時、針生山荘建設時といった各時代の写真を紹介させてもらいました。いづどこで撮った写真を探求する楽しみもあったのではないのでしょうか。綿密な準備の下できめ細やかに当日の会が進行できましたことについて準備メンバーに感謝いたします。

最後に、合計114名もの参加者に恵まれましたこと、何よりも、長峰部長先生が、スピーチにおいて「部長に就任してから一度も嫌な思いをしたことが無かった」との一言を伺う事が出来たことが何より嬉しかったと思います。今後のなため会の発展に繋げていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

長峰章部長先生に感謝する会

■日時 2018年11月24日(土) 12時30分～15時00分

■場所 明治大学 紫紺館

◆式次第

開 会

- 一、なため会会長挨拶
- 一、ワンダーフォーゲル部監督挨拶
- 一、乾杯
- 一、歓談
- 一、バックル贈呈
- 一、高橋信勝副部長先生挨拶
- 一、新四年生紹介

閉 会

- 一、長峰先生の履歴書
- 一、歓談
- 一、長峰章部長先生との思い出
- 一、バックル、記念品、花束贈呈
- 一、長峰章部長先生挨拶
- 一、部歌、校歌斉唱
- 一、写真撮影

◆出席者：116名（会員71名、学生45名）

●会員：71名

1000 長峰 章	1200 高橋 信勝	532 鈴木 正彦	558 奥倉 勇一	661 大賀 徹雄	683 横手 一男
751 諏訪本充弘	835 猪狩 稔	181 新村 貞男	299 大内 善一	301 小宮 盛治	345 吉田 修
392 内田 吉成	393 植木 正子	450 鈴木 要介	477 天野 俣明	478 大澤 英一	487 鈴木 康弘
501 前田 芳弘	527 池田 陽一	530 磯崎 守弘	601 池上 勝彦	610 石田 正	614 石井 克太
627 和田 満	705 杉山 裕	714 南出 進	717 住田 孔一	728 横尾 廣志	764 高橋 壽子
788 原田 博文	792 柳川 俊泰	817 和賀井英雄	859 丸山 貞二	871 平田 正博	897 山下 仁志
915 日暮 浩美	1006 安部 好洋	1017 山口 直樹	1064 井上 堅一	1106 前田 裕司	1115 上原 誠
1134 磯村 恵美	1137 清水 弘美	1156 中村 央	1157 浦部 頼之	1163 松尾 悟	1165 野口 修
1174 尾崎 剛史	1180 出浦 裕二	1182 川崎 剛	1196 中村 宏之	1211 末永 正樹	1213 伊藤 雅俊
1216 川澄 剛史	1226 杉山 文啓	1267 山脇 英明	1269 境 健成	1282 諏訪部貴亮	1283 鈴木 優花
1287 内山 嘉穂	1288 田口 和昌	1291 渡辺 千佳	1293 勝田 三月	1296 前川 晃慶	1304 松田彩友美
1305 永田 真帆	1306 由水 雅也	1310 神内 亜美	1312 高橋辰之介	2120 鈴木 元典	

●学生：45名

4年 今井 幹登	4年 大室 克磨	4年 奥山 昂	4年 平 将秀	4年 田中 雄大	4年 沼田 直也
4年 林 薫平	4年 福澤 光浩	4年 藤井裕希恵	4年 乗木 大朗	4年 守屋 雄貴	4年 森山 澤鵬
4年 吉田 理人	3年 青柳 晃太	3年 大原正太郎	3年 柿原 匡佑	3年 木皿京太郎	3年 小島 桃李
3年 杉井 一毅	3年 高橋 和大	3年 林 亮太	3年 北条 豪一	3年 星 與志也	2年 家子 貴暁
2年 伊藤 悠人	2年 梅澤 直希	2年 梅野 航	2年 岡田 茜	2年 尾島 佐和	2年 小野 剛志
2年 桑原倫太郎	2年 小林 亮太	2年 杉本 雪乃	2年 手島 寛人	1年 相磯 匡輝	1年 市川 拓真
1年 伊藤 秀嶺	1年 北上 泰河	1年 斎藤 慎太	1年 柴丸 貴	1年 芝本 真都	1年 田中 雄基
1年 三石 遼	1年 山川 大輔	1年 渡邊 延暁			



あきら(長峰先生)の履歴書

長峰 章 (NAGAMINE Akira)

- 1949年 (昭和24年) 1月 埼玉県入間郡鶴ヶ島村(現:鶴ヶ島市)にて出生
 ◎7人兄弟の末っ子
 ◎家業は農業と酪農、畑仕事・牛の世話はお手のもの
 ◎やんちゃな子供時代
- 1968年 (昭和43年) 4月 明治大学 政治経済学部経済学科 入学
 ◎英語部(ESS)への入部理由は・・・
 ◎ロックに夢中 レッド・ツェッペリン、シカゴ、ボブ・ディラン
 ◎ハワイ大学に夏期留学「ハワイはパラダイス」
 ◎就職説明会を飛び出し「自由からの逃走」
- 1972年 (昭和47年) 3月 明治大学 政治経済学部経済学科 卒業
 4月 明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 修士課程 入学
 ◎社会とは人生とは「モラトリアム」
- 1974年 (昭和49年) 3月 明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 修士課程 修了
 4月 明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 博士課程 入学
 1978年 (昭和53年) 3月 明治大学 政治経済学部経済学科 経済学専攻 博士課程 修了
 1979年 (昭和54年) 4月 明治大学 政治経済学部 非常勤講師 就任
 1986年 (昭和61年) 4月 明治大学 政治経済学部 専任講師 就任
 1992年 (平成4年) 4月 明治大学 政治経済学部 専任助教授 就任
 明治大学 体育会ワンダーフォーゲル部 部長 就任
 ◎部長就任の経緯は・・・
 ◎夏合宿BCの思い出(鹿児島開聞岳 北海道ウエンシリ岳)
 ◎鈴木善次郎監督との北海道旅行
 ◎忘れられない北海道のウニ
 ◎最後の夏合宿
- 1995年 (平成7年) 3月 マンチェスター大学 在外研究
 1996年 (平成8年) 3月 マンチェスター大学 在外研究 修了
 2009年 (平成21年) 4月 明治大学 政治経済学部 専任教授 就任

高橋副部長先生のプロフィール

高橋 信勝 (TAKAHASHI Nobukatsu)

- 1971年 (昭和46年) 2月 宮城県にて出生
 1993年 (平成5年) 3月 明治大学 政治経済学部 卒業
 2000年 (平成12年) 9月 明治大学 大学院政治経済学研究科 博士後期課程 中退
 2012年 (平成24年) 4月 明治大学 政治経済学部 教授 就任
 ◎研究テーマ 古典派経済学・明治期の経済学啓蒙

- ◎ 趣味・特技:長時間の読書
 ◎ 座右の銘、好きな言葉:人生はいつも美しい
 ◎ 尊敬する人:高橋孝信(父)
 ◎ 好きな食べ物:吉次(魚)・洋梨
- ◎ 好きな歌:I love you(尾崎豊)
 ◎ 好きな芸能人:和久田麻由子(NHK アナウンサー)
 ◎ 意識している長所:前向きであること
 ◎ 生まれ変わったら就きたい職業:建築家

若き長峰章部長先生との思い出

BN 1115 上原 誠

私は、OBとなった後に、長峰部長先生とお会いする度に思い出す光景がある。それは、まだ40代の若き部長先生が、とある山頂で我々部員の注目を一手に受けて、エールを切っている姿である。私が4年時の平成5年夏合宿は北海道で行い、BCはウエンシリ岳(1142m)の麓となる紋別郡西興部村のキャンプ場に設定した。そのあたりは非常に雪深いところで、斜面では雪崩が頻発し、深い谷に積まれた雪は夏まで残り、氷のトンネルが名物となるような場所であった。私の現役時代の夏のBCは2泊3日で、途中に全員で登山を行うのが通例となっており、部長先生が就任された前年の平成4年は九州鹿児島の開聞岳で行った。当時は、フパーティールと女子班の合計8班体制で、全員で80名ほどはいたであろうか。まだ若き部長先生は、BCの登山に参加し、ウエンシリ岳に登り、山頂で80名の部員を前にエールを切ってくれたのである。

部員にとって、部長とは、ある種偉い先生が務められる遠い存在であった。私が下級生時代に、前任の部長先生が山を登っている姿は拝見したことはなかった。しかし、長峰部長は、とても気さくで好奇心旺盛なお兄さん的な雰囲気を持ち、BCで登山イベントがあるなら歩いてみたいとのことであった。麓の

キャンプ場から山頂までは標高差約700m、部員でも実働4時間程度は予定されていたため、部長先生にお供することとなった私は、どこで引き返すかを思案していた。しかし、元氣な部長先生はあれよあれよと山頂まで登ってしまった。そして、全部員が山頂でたむろしている中を、エールを切ると進み出て、北海道の夏空の下で見事我が部を一つにしてくださいました。帰りの下り坂では随分と膝が痛そうでしたが、そんな中でも明大節を高らかに披露して下さり、元気で痛快な部長先生に圧倒された思い出があります。

その後、27年もの長きに亘り部長先生を務めて下さったことも、夏のBCに毎年参加して下さったことも、部長就任当初の夏の楽しい思い出があったからなのでは、と手前勝手に善解している次第です。部長先生への長年の感謝の気持ちを、長・峰・章という名前が入った短歌として心を込めて詠ませて頂きます。

「長きこと国土の峰々わたりとり

教え子に刻むための章」

長い間ありがとうございました

BN 751 監督 諏訪本 充弘

長峰先生長い間で指導ありがとうございました。先生との思い出は何といっても平成24年初夏の生田飲酒事件を挙げねばなりません。

ん。当時先生63才、私61才、共に還暦を過ぎた二人が頭を垂れて説教される。あまりににがい思い出でした。

感謝する会の挨拶での経緯書では言い切れなかったことを補足しますと、私は針生に居て主務の岩田から一報を聞きましたが6月11日にスポーツ振興事務室から先生及びわたしあてに次のメールが来しました。

【今月8日に生田部室でワンダーフォーゲル部9名が部室において電熱器での焼肉と飲酒をしていたとのことでした。部室での飲酒は厳禁としており、また9名中8名は未成年であったこともあり、本日主将、主務を呼び出し指導、指導したようです。つきましては生田学生支援事務室から部長、監督、主将、主務連名の反省文を求めましたので、ご協力願います】
続いて6月26日に

【さて6月8日の生田部室棟内で部員が焼肉及び飲酒をしていた旨、武藤事務長あるいは当事務室からご報告させていただきました。

過日の小樽商科大の飲酒による事故を受け学生部長も重く受け止めているようです。

つきましては部長、監督連名の報告書を作成・提出いただきたくお願い申し上げます。7月第1週を目途にご提出くださいますようお願いいたします。夏季休暇前には面談を実施させていただきます」

更に7月12日

【学生部長、副学生部長とのお話合いの場

を設定させていただきます。

第一希望 7月26日 13時～18時

第二希望 7月24日 10時～12時

第三希望 7月17日 10時～12時

ご多忙の折誠に恐縮ですが宜しく願います】

ということ、7月26日13時に学生部長室で松橋学生部長、藤永副部長、武藤事務長の3名と面談して、私どもはただ頭を下げっぱなしという具合で屈辱の半刻を過ごしたわけです。

同日16時

【7/27午後生田部室の使用停止解除について

部長、監督におかれましては、ご来室賜りありがとうございました。

さて標記の件、本日の学生部長との面談により、明日の午前中に生田担当者が解除手続きをいたします。取り急ぎ要件までもうしあげます】

なんとも長い50日でした。

長峰先生、

ありがとうございました

BN 1174 平成8年度卒 尾崎 剛史

私がワンダーフォーゲル部に入部し、初めての総会で長峰先生にお目にかかったと思います。とはいえ、部の最上級におられる方でしたので、最下級部員が話しかけることもなく、えらく遠い存在だなと思った記憶があり

ます。

4年生になった時、先生はイギリスに留学されており、新田先生が部長代行を務められておられました。そんな時、谷川岳の事故を起こし、長峰先生にもずいぶんご心配をお掛けすることになり、大変申し訳なく思っております。

私は主務を務めていた関係で、長峰先生とお話させていただく機会は多かったと思います。夏合宿の北海道のBCで、「マネージャーは車の運転が上手いね。」と褒められたことは今でもよく覚えています。

その後、コーチに就任したこともあり、長くお付き合い頂けました。入部当時、雲の上の方、というイメージでしたから、私も偉くなったものだなとしみじみ思います。

長峰先生がよくお話になるウエンシリ岳（北海道西興部村）のBCピストンは、私が1年生の夏合宿の時のことです。当時、上原さんが主将でした。長峰先生は、「すぐ行けるからというので登ったけど、キツくて大変な思いをしたよ。」とお話されていますね。ただ、この時、長峰先生がウエンシリ岳の山頂で気持ちよさそうにエールを切られていたことをよく覚えています。非常にすがすがしい様子で、周りにいる現役部員も大盛り上がりでした。私、ワングルを辞めたかったのですが、そんな長峰先生のお姿と、喜ぶ部員の姿を見て、この部の良さを感じた記憶があります。ですので、私がワングルを続けられ

たのは、あのウエンシリ岳のエールがあったことも理由なのかもしれません。

これからも、ワングル部員の活動を見守ってくだされば幸いです。大変お世話になりまして、深く御礼申し上げます。今後のご健勝をお祈り申し上げます。

長峰先生とのグルメな日々

BN 817 和賀井 英雄

長峰先生との一番の思い出に残るエピソードといえば、私が9年間務めたコーチ時代に毎年の夏合宿で味わう地元グルメでした。その中でも忘れられない食材はウニです。その衝撃の舞台は積丹ブルーといわれる透き通った海、そこで獲れる魚介類の宝庫北海道積丹半島の付け根の岩内町であった。そこで夏合宿のベースキャンプを設置した時であった。

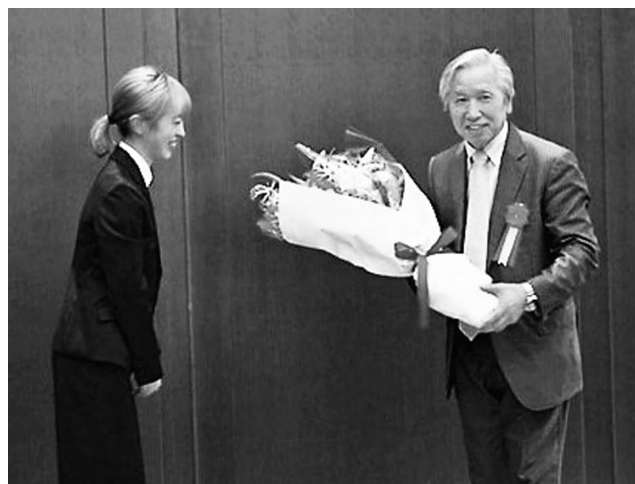
宿泊したホテルは、お盆時期にも関わらず北海道在住の県会議員でもあった内海先輩の紹介で奇跡的に宿泊できたグリーンパークいわない。まず驚いたのは夕飯に出た「ざるウニ」だ！積丹のウニの特徴は、ウニが好んで食べる好物が雑味の少ないやさしい味の細目昆布を主食にしているために、純な味と濃厚クリーミーな甘み特徴だ。

直径40cmほどのざるにウニが重なり合っている。私の食べる10年分位のウニの量だ。まずは箸でざるの端から端まで箸でズスーとすく

うとウニのミルフィュー状態だ。あの感触は今でも忘れられない。

翌日は現役諸君はピストン登山へ。私と長峰先生は車で積丹半島のクルージングへ。積丹半島の先端の小さな町の食堂でランチ。当然にうに丼を注文する。昨夜のざるウニとは違った美味しさであった。その後どんな高級寿司屋でウニを食してもあの時のウニの味を超えるものには出会っていない。

長峰先生長い間本当にありがとうございました。これからもたまには夏合宿に遊びに来てください。またグルメを堪能しましょう！



現役部員より花束贈呈

なため会秋田Wを終えて

BN 826 村木 隆

なため会秋田Wには、総勢28名のご参加をいただき、誠にありがとうございました。色々手落ちもあったかと思いますが、ご参加の先輩方からは、ねぎらいのお言葉をたくさん頂戴し、感激しております。

さて、薫風への原稿依頼を受け、何を書いたらいいのか筆不精の私としては、W企画以上のプレッシャーを感じております。ただ、恐らく秋田Wの内容については、他の参加者の方が投稿されるであろうから、私は秋田W開催までの裏話を一席…と、思います。

そのメールが突如として私のパソコンに入ってきたのは、平成29年10月14日のことでした。差出人は企画振興部濱田先輩……本能的に「ヤバイ…見なかったことに…」と思っても後の祭。既にメールは開けてしまっていた（濱田さん、ごめんなさい）

内容は「企画振興部で、なため会W計画を立てるにあたり、来夏に秋田にて行う予定（すでに決まっている）…中略…無理には言いませんが、企画作成できるか検討いただきたい」とのことでした。

体育会である明治大学フナダーフォーゲル部において、2年も上の先輩に、「これ、決定事項なんだけどよお…無理には言わんけど、お前やってみないか？」と、無理を言われたら、これは気の弱い私は従わざるを得ま

せんって。

こうして喜んでお引き受けることになりましたが、実は私にはひとつ勝算がありました。こちらには3学年下で、何を思ってたか横浜から秋田くんだりまで嫁に来てしまった小林香織さんがおりまして、私と違って度々山に登っているとのこと。企画についてお任せ（丸投げ）することは、私の中でこれもまた決定事項になっていました。

また、まもなく発刊された薫風で、秋田県鹿角市の法テラスに尾崎剛史氏が勤務しているのを知り、さっそく連絡を取って、3月31日この3名で懇親会兼第一回企画部会を開催することにしました。こうして、いよいよ動き出したのです。

まずは、場所。これは、80周年Wをほぼ踏襲することになりました。秋田県内において、景観・お花畑・近辺の観光地等を考えると秋田駒ヶ岳以外にはないと思われ、どなたも異存なく決定いたしました。

問題は、宿泊先でした。さて、何名位の参加となるものなのか？当初、地元を除けば、せいぜい10名位だろうと踏んでいたのですが、小林香織さん曰く、女子班に大々的に声をかける…とか、便乗して（笑）同期会を企画している代がある（確かに、フェークニュースではありませんでした）との話があり、もしかしたら、40名位になるかも…宿泊先をどうする？となりました。80周年で宿泊し好評だった「駒ヶ岳温泉」は、最大でも30名しか

収容できないとのこと。これはもう良心に反するものの、保険の意味で二股かけて予約しておくしかないな……となり、某ホテルに40名追加予約しました。30名以内なら、駒ヶ岳温泉。30名を超えるようなら某ホテル…としました。それでも内心、秋田までそんなに参加者はないだろうと、高をくくっていたというのが、ホントの所です。そして、企画振興部濱田先輩から、色々ダメ出しを受けながらも4月の下旬に会員への秋田W案内書を提出し、もう後には引けなくなりました。

さて、5月に入って会員宛に周知したところ、2週間ほどで30名を超える申し込みを受け付けて、これはもう駒ヶ岳温泉は無理かな？と。大仙市在住の大御所・渡部彰悦先輩にお伺いを立てたところ、「宿泊先が二手に分かれるのはうまくない。駒ヶ岳温泉が全員泊まれないのであれば、他のホテルに一本化もやむを得ないだろう」とのご意見を頂きました。

私も同意見だったのですが、小林香織さんに某ホテルにするしかないんじゃない？と伝えたところ、「秘湯・鶴の湯とのパックを売り物にして案内書を出しているの、それを楽しみにしている方が多い。なんとか、駒ヶ岳温泉に宿泊増員要請をしてもらいたい。」との要請（指示？）を受けました。今思えばこの時が、「すぐに諦める先輩」と「絶対に諦めない後輩」の立ち位置が逆転した瞬間でした。

駒ヶ岳温泉は幸いにも、当初から全館貸切での予約をしていたため、「寝るところは、廊下でも布団部屋でも構わない。なんなら、こちらからシユラフを準備していく」との交渉が奏功し、四十名までなら…との回答を引き出すことができました。（翌日、食器がないので、やはり三十名まで…との電話をもらい慌てましたが、じゃあ中を取って、三十五名までとの結論に至りました。）これで、最大の難所を通過することができました。

さて次なる難所は、秋田駒ヶ岳登山口までのアクセスをどうするか？でした。路線バスは走っているものの、大型バス一台のみ。七月末は秋田駒ヶ岳の、ほぼトップシーズンですので、三十人近い人数では、乗り切れない可能性が大いと思われました。一般車両の乗り入れは禁止されています。バス会社ではその日の状況を見て増発もあり得るが、増発の予約は受け付けていないとのことでした。

ここで、「絶対に諦めない後輩」の登場です。登山口までの道路が一般車両乗り入れ禁止とあるが、「許可車両は例外」という点に着目したのです。そして、駒ヶ岳温泉に許可証がないか聞いた…つまり、「許可証があるなら、旅館のバスで登山口まで乗っけてつてくれ」という交渉をしたと言うではありませんか…旅館で協議した結果、了解していただいたのです。スゴイ迫力ですねえ。ただし、「今まで、そういうことを言ってきたお客様はいなかった」とのことですが…。



第66回なため会秋田ワンデルング 2018.7.28～29

そのほかいろいろありましたが、尻切れトンボのようで申し訳ありませんが、あまり長くなってもつまらないので、この辺でおしまいにします。

鹿角市の尾崎さんには、企画立案に参加頂き、また登山届やら、宴会の準備をしていた

できました。大仙市の渡部先輩には、細かいところまで相談をしてご指示を仰ぎながら、進めてきましたし、宴会では秋田ならではのツマミを準備していただきました。大館市の小林雪夫先輩には、遠いところ自家用車でおいでいただいて、色々な荷物を積んでいただきました。まさに、地元が団結しての、秋田W成功と言えます。

また、台風・熱中症など、心配された事項に関しまして、企画振興部の濱田先輩・平田さん・山下さんのご指導を頂きながら対策を講じることができ、無事に終えることができました。心からお礼を申し上げます。

今年の秋田は、その後の甲子園・金農旋風もあり、本当に熱い夏でした。

今後、機会があれば、なため会Wに是非参加したいと思っております。その節は、よろしく願います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

秋田わんでるんぐ之記

企画振興部 BN 795 濱田 稔

今は昔 みちのく羽後に邑木、小はやしといふものはべりけり。邑木身の丈6尺二寸質実剛健なり。小はやし見目麗しく小野小町の再来といはれる。都にて学を志し 山迷彷徨に興じたり。

久方ぶりに思ひて文などしたためしところ「秋田へまいりゃんせ」との返事。あなうれし。



ここが噂の「ムーミン谷」 雨でかえって幻想的雰囲気が増しました



チングルマの乱舞！



もっとも天気が良ければこんな絶景が広がります (某 HP より)

友を集めて参らむと約す。
 文月のころ 邑木、小はやしはべりし羽後へこまちなる超早駕籠にて参りし。
 羽後に駒ヶ岳といふ名山あり。邑木、小はやし等羽後のひと5名、都人19名、老若男女うちそろえて登るなり。雨あり夏といえど氷室のごとし。けしきなかりしが、花いとうつくし。阿弥陀池にてけしきなかりしに降りるべしと申したるところ ムーミン谷参りしに駒ヶ岳に登るなり、なたまひそとをなご申せ

る。池の淵に立ちたる小屋をまへに、来たしるしにびくちやあに収まりし後、をのこ13名降りるなり。宿にて湯あみを楽しみ酒を楽しみ談笑す。あつまをなご5名、をのこ6名ムーミン谷徘徊す。をなごいと強し。ムーミン谷あまた花咲き乱れ楽園なり。
 夕刻 邑木等羽後の人 駒ヶ岳温泉にて都人をもてなすなり。皆して酒肴を楽しむ。美味なり。酒池肉林にあらず。
 名湯鶴の湯につかりて十六夜月をめでも

いとおかし。
 湯前看月光
 疑是地上霜
 舉頭望山月
 低頭思故郷
 歌など歌うもさらなり。彦星、織姫も楽しからざるや。
 酒肴し笑ひ転げたるうちに夜は更けつつよき思ひ出なり

BN 451 山田祥二先輩から標記感想文の手紙がありましたので、下記のとおり転記します。

秋田Wでは、私達夫婦は田沢湖遊覧のあと、レストハウスで食事に「夏野菜の冷かけうどん」(850円)をすすめられ、冷えた稲庭うどんにオクラ、きゅうり、人参の入った汁けで大変おいしくいただきました。たまたま庭にブルーベリーがなっているのを見つけ、「好きなだけ取って食べてください」と言われ、野菜汁に混ぜて食べましたら、なお一層美味しくいただきました。

角館観光においては、秋田在住のOB・OGの皆様のお氣遣いに感謝いたします。

二〇一八年 情断会東北ワンデルング (焼石岳・南本内岳)

BN 788 原田 博文

今年は大曲在住の同期、渡辺彰悦に会おうという事で、なため会の秋田Wに参加させて頂いた。情断会としては、別行動で現地合流した加瀬を含め総勢六名。登山はいにくの天気であったが、秋田在住のOG・OBのご尽力により、楽しい時間を過ごさせて頂いた。また、他のOB・OGの皆様には大変お騒がせしました。失礼いたしました。

さて、情断会の小田野、宮澤、小川、原田の四人は後半戦「南本内岳・焼石岳W」のために盛岡に移動。盛岡でレンタカーを借りて

前泊地である岩手県・西和賀町の湯川温泉に向かう。本日の宿「高繁旅館」は安さで選んだ旅館だったので多少の不安はあったが、なかなか立派な建物だし、おばあちゃん、お父さん、お母さんをはじめ、従業員の皆さんもとてもフレンドリーで素朴さを感じさせてくれる。

お風呂も露天風呂、内湯ともに清潔だし何と言っても黄金風呂が気持ちよかった。

料理も地元で採れた山菜をたっぷり使った料理でこれも大満足であった。機会があったらまた泊まりたい宿である。

翌朝は通常より早めに朝食を用意してもらい、しっかりエネルギーを補給して出発である。予定時間よりも若干早く出発したのであるが、カーナビと助手席のナビゲーターの見解の相違から若干遠回りをして林道に突入。と思ったが林道の入り口には「全面通行止」の看板。幾日か前に地元の役場に確認した時には通れると言っていたのに！看板は何かの間違いだろうという事で未舗装の林道に乗り入れたが、道幅は狭い。乗用車は問題なく通行出来るがすれ違いは無理。たまに待避所はあるが、対向車が来たときはどうやって待避したくない。水を排水するためか、所どころ大きな段差があり、この為に借りたスバル・フォレスターでも最徐行。

こんな半端ない林道を約一〇キロ走ってようやく登山口に到着。もちろんほかの車はな

く、今日の登山者は我々四人だけだろう。予定より二〇分遅れでいざ出発。

しばらく杉の造林地を歩き、沢を渡れば杉林はブナの森に変わり傾斜も出てくる。標識「二」を過ぎると尾根筋の本格的な登りになり、汗が吹きだしてくる。標識「二」で尾根道になると時々涼しい風が吹いてくるがなんせ今年の猛暑である。体力はどんどん消耗する。尾根道は所どころ痩せている所もあるが、歩きやすい道である。

新倉沢の渡渉点を過ぎてしばらく歩くとブナ清水がある。道端から湧き出す清水は「水質は保証しない」旨の注意書きがあるが冷たくて美味しい。水場を過ぎてナナカマドやサラサドウダンの灌木帯を抜けるとお花畑コースと尾根コースの分岐に着く。ここは進路を右にとってお花畑コースを進む。木道が整備されているが、あまり手入れはされていないようだ。湿原は明るくて気持ちが良いが、直射日光にさらされて暑い。ヒオウギアヤメやミズバショウ、シナノキンバイ、ハクサンチドリ等が群生しているが、花はほぼ終わっていた。

お花畑を過ぎると尾根に上がり、郡界尾根を合せてところで南本内岳山頂に向かう道と焼石岳に向かう道に分かれる。南本内岳は帰り寄ることにして、焼石岳方面に向かう。東成瀬からの道と合流した少し先には焼石神社の祠があり、祠の前で昼食にする。ここで初めて他の登山者と会った。東成瀬コースを下



山するという。

祠から巨岩の中を十分ほど進み、最後の急登を登れば一等三角点のある焼石岳山頂である。広々とした山頂はときどき風で雲が流されてくるもののほぼ快晴。しっかりと山座同定はしなかったが、岩手山、早池峰山、鳥海山、月山等が見えていたはず。

予定では焼石平をめぐる予定であったが若干コースタイムから遅れていたこともあつ

て、来た道を戻って南本内岳に登り、尾根コース経由で下山する。尾根コースも利用者が少ないせいか刈り払いしてあるものの、多少数がかぶっている。左下にお花畑コースの湿原、右に牛形山を見ながら気持ちの良い尾根道をしばらく下ると、樹林帯に入りお花畑コースとの分岐に着く。あとは来た道を下るだけだ。

決してペースが遅かったわけではないが、予定時間から少し遅れて登山口に到着。そそくさと着替えてまた半端ない林道を走って北上駅に向かった。

事情には触れないが小生にとっては、秋田駒は一年の夏合宿、焼石岳は四年の夏合宿のリベンジであった。両方達成できてよかったよかった。

秋田駒ヶ岳ワンデルング

BN 683 横手 一男

今は昔、一九六六年（昭和四一年）MWVの夏合宿が東北地方で行われました。私は一年生で三班のパティーでリーダーは清水邦彦さんでした。コースは秋田駒ヶ岳から八甲田山のベースキャンプ地までの行程です。上野駅発の夜行列車で盛岡駅に早朝に到着する。駅からバスターミナルまでキスリングを担いで歩く。一汗かいて到着する。バスで八合目に着く。そこから秋田駒ヶ岳を登り千沼が原く乳頭山く田代平で泊。夏なので午前中

も日差しが強い。二年生が日射病の兆しがあり、途中下山して午前中にサイトワークとなる。翌日は予定通りに進む。八幡平から藤七温泉でテントサイトした。リーダーの指示で温泉に全員入る。その日夜は天ぷら料理を作って食べる。山では珍しい献立でした。

翌日はバスの時刻が早いので、四時出発でしたが、我々一年生は寝坊して遅れてしまった。そこで蒸けの湯バス停まで駆け足でいく。目の前を無情にもバスが発車してしまった。そのおかげで行程がずれてしまう。十和田湖を眺望できる発荷峠でしばし休憩となる。その後、広い山道を歩き続ける。暗くなっても歩き続ける。ようやくサイトワークの指示が出る。道にテントを張る。……

五二年前の記憶を辿り思い起こしてみしました。夏合宿解散後は同じパティーの一年生西島兄、松葉兄等数人のグループと北海道を歩きました。青森駅から青函連絡船に乗り函館駅に到着すると、烏賊の香りが印象的でした。北海道周遊券で観光地巡りをしました。

二〇一八年（平成三〇年）7月28日東京駅発6時32分秋田新幹線で田沢湖駅9時21分着。スピード感が違いますね。秋田のOB諸兄に会うのが楽しみです。27名の参加者のほぼ私が現役時代を知っている人達です。大館の小林（昭和46年度卒）さん、大曲の渡部（昭和50年度卒）さん、秋田の村木（昭和53年度卒）さん、大曲の小林香織（昭和56年度卒）さん、鹿角市の尾崎（平成8年度卒）さんお

世話様でした。山の天気は曇り雨でしたが、下山するときには雨が上がり眺望がよくなりました。高山植物もありましたのでよかったです。下山後の温泉も最高でした。翌日の田沢湖と角館観光も楽しかったです。角館は桜の時期に來たいです。

■年間スケジュール

企画振興部

2019年度の山と親睦を楽しむため会ワンドルングを、次のとおり実施します。
奮ってのご参加を、お待ちしております。

日程	地域
5月11日(土) 5月12日(日)	名古屋W(鈴鹿&懇親会)
7月下旬	大菩薩嶺
10月26日(土) 10月27日(日)	丹 沢
2019年 2月15日(土)	未 定

九州・山口地区OB懇親会のご報告

BN 1022 高取 克好

創部80周年記念ワンドルング以来、3年振りの九州・山口地区OB懇親会を、2018年8月25日(土)に八仙閣本店(福岡市博多駅前)で開催しました。

台風19号、20号が立て続けに接近し、開催

が危ぶまれる中、前回の12名を上回る15名の参加者を得て、楽しい懇親会となりました。なお、今回は範囲を拡げて広島在住のOBにもお声掛けしましたが、残念ながら広島地区からの出席はありませんでした。またの機会にお目にかかれることを楽しみにしています。

自己紹介(15名中6名が初参加)&近況報告、スライドショー、なため&校歌斉唱、野中先輩によるエールと盛況のうちに閉会し、二次会へなだれ込みました。

前回の記念ワンドルングに引き続き、今回も余興としてスライドショーを行いました。

出席者に写真を持参してもらって、それをスマートフォンで取り込んでテレビに映しました。フोटোসキャンというスマホアプリを使うと簡単に写真が取り込めますし、テレビへの出力も専用アダプタとHDMIケーブルだけで済みますので、ぜひお試しください。写真ですが、昭和50年代、60年代のOBのものは、絵面がほとんど一緒に違いが分かりません(薫風54号の坂上先輩の投稿を拝見すると昭和40年代も同様のようです)。しかし、昭和30年代以前のOBの写真は興味深く貴重だと思えますし、この辺りの写真をなため会として収集し、保存しておく必要があるのかもしれません。

徳永OBには昭和30年代前半の写真をアルバムごと持参して頂きましたが、こちらの段取りが悪く、一部の紹介に留まってしまいま

した。申し訳ございませんでした。また拝見できればと思っていますので、よろしく願い致します。

今後の展開ですが、地方はそんなに人の出入りがありませんので、懇親会はそのうちネタ切れになります。そうならないように懇親会とワンドルングを交互に開催しようかという話もありますが…。

これは個人的な願望ですが、将来的には、現役部員が参加してくれたらいいと考えています。地方出身者がどれくらいいるか分かりませんが、就職活動で地元に戻る4年生や帰



2018年8月25日(土)
明治大学体育会ワンドルング部
九州・山口地区OB懇親会
(於 八仙閣本店)

省中の1〜3年生が参加してくれば、楽しいものになるでしょう。

すぐに実現する話ではないので、手始めとして、現役の活動状況が分かる写真や動画を地方の懇親会に提供して頂ければ助かります。九州・山口においては、現役の活動を目にするのは4〜5年毎の夏合宿BCのみで、ワンデリング中のことを知る機会がありません。

今回は3年振りの集まりとなりました。

次回はそんなに間をおかずに開催できればと考えていますので、九州・山口在住の皆様、九州・山口出身の皆様、その他九州・山口に縁もゆかりもない皆様、同期のみならず、先輩・後輩もお誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

〈出席者〉

268 浜田 和正	365 徳永 哲也	658 江口 基雄
794 光浦 毅	810 村山 孝	811 吉村 哲夫
817 和賀井英雄	819 菱刈 正純	917 繁谷 浩
937 野中 成浩	1013 齋藤 哲也	1022 高取 克好
1035 兼廣 克巳	1039 佐々木 隆	1065 齊藤 宏

全国各地の親睦会幹事の募集

BN 835 幹事長 猪狩 稔

2016年に行った会員アンケートでは、「地域の会員同士で交流できたら楽しそう」というご意見を多くの方々からいただいておりますが、皆様のご意向に沿うことができ

ずにおり、お詫び申し上げます。

さて、昨秋より、運営委員会の若手を中心となり2019年度に全国5地域において定期的な親睦会をスタートして頂けるよう準備を始めました。

昨夏には、全国にさきかけて佐賀の高取克好さん⁽¹⁰²⁾が幹事となり、九州・山口ブロックの日帰り懇親会が博多で開催されました。

東北地区では、秋田の尾崎剛史さん⁽¹¹⁷⁾、仙台の中村宏之さん⁽¹¹⁹⁾が、このたび早く幹事を引き受けて下さいましたので、今夏に親睦会の開催を計画しております。

名古屋地区では、天野徹明前会長⁽⁴⁷⁾を中心に親睦活動が活発ですので、若手の皆さんが中心となり2020年より広域にお声かけしていただき親睦活動を広げていただくところです。

つきましては、運営委員会では、各地域における定期的な親睦会の開催を全国に広めるべく、幹事をお引き受けくださる方を募集いたします。

幹事をお引き受けくださる方には、最新の会員連絡先の提供、開催案内通信費の全額補助、高取さん直伝のノウハウの提供等、開催のサポートをさせていただきます。

また、地域の範囲は特に定めておりませんが、九州・山口ブロックでは、会員の皆さんが日帰りでご参加できるよう13時から懇親会を開催されたとのことです。

地域の親睦活動は地域の主導で推進してい

ただくことが柱ですので、幹事の裁量で地域を盛り上げて頂ければと思います。

近い将来なため会を担って頂く30歳代〜40歳代の皆様には、特にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

佐賀の高取さんには諸準備に当たりいろいろとご協力をいただきありがとうございます。この場を借りてお礼申しあげます。

親睦会幹事をお引き受けくださる方、お問い合わせのある方は、総務部宛にご連絡をくださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせ：なため会総務部

sounmu@natamekai.org

ウズベキスタンにて

BN 746 松井 幸市

皆さんお元気ですか？

中央アジアの国ウズベキスタンに行つて来ました。場所はウズベキスタンの首都タシケントの東、国境に近いフェルガナという所です。

8月19日に福岡〜仁川（インチョン）〜タシケント、19日〜20日タシケント滞在、21日、飛行機でフェルガナに移動し現場に到着。仕事は日本政府のNEEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）が当地の豊富な天然ガスの有効利用を提案し機械設備を売り込む、エネルギー開発設備の実証実験工事のこ

ンサルタントです。日本政府と日本企業の手伝いで、今回は土木技術者として基礎工事、機械設備付け工事のコンサルタント業務です。以前本誌でご紹介したインドもJAICAでいわば新幹線の売り込みの手助けでしたから、最近は国策事業の手伝いが多くなっています。海外で稼ぐのは多かれ少なかれ国や企業のためにもなりますから似たようなものです。

ウズベキスタンは東西に長い国で、首都はタシケント。その南西にサマルカンドというシルクロードやジンギスハーンの西征の拠点となった有名な都市があります。シルクロードは2000年前から中国の絹を長安からローマ帝国にもたらした通商路で、昔はラクダを率いた隊商が多く行き来していたことでしょう。シルクロード(天山北路)はこの国を東西に横断しここフェルガナ・タシケント・サマルカンド・ボハラ・月の砂漠・カスピ海を回りヨーロッパに至ります。ちょうど陳舜臣の「チンギス・ハーンの一族」を読んでいる、タイムリーに物語の舞台の感覚を感じることができます。

フェルガナは昔は月氏の国「大苑」と呼ばれていたところで周囲を高い山に囲まれた盆地になっていて、水が豊富な自然が美しい街並みは「中央アジアの真珠」と呼ばれているそうです。タシケントもフェルガナも道路は広くゆったりとした街でゴミもなく整然としたきれいなところですが、旧共産圏の国だっ

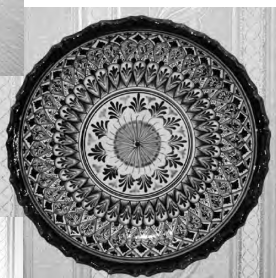
たためかいわゆる資本主義国のケバケバしさ(商業優先)はあまり感じられず社会主義国のそっけなさが残っているようにも思えます。

タシケントやフェルガナの街、そしてホテルでいろんな顔の人々と会うことができ、文化と人種が交わり融合していった過去の歴史を肌で感じることができます。この国の料理はどれも美味しく、中国の麺料理や水餃子などを欧州・中東料理と同時にテーブルで味わえます。

ホテルの女性や通訳の青年、街、ホテル、名産のウズベキスタンブルーのお皿の写真を添付します。お楽しみください。



名産のお皿 →



↓ 街の様子



← 通訳の青年



→ 泊まったホテル

↓ 民族衣装の女性



〔新執行部紹介〕



高橋 和太
会計・3班 SL、気象・通信係チーフ
理工学部物理学科
出身地：東京都
明治大学附属中野高校



青柳 晃太
主務・2班 SL、衛生・針生係チーフ
理工学部電気電子生命学科
出身地：東京都
日出学園高校



杉井 一毅
主務・4班 SL、装備・針生係チーフ
商学部商学科
出身地：静岡県
静岡学園高校



林 亮太
3班 PL、トレ・針生係チーフ
商学部商学科
出身地：千葉県
千葉市立千葉高校



大原 正太郎
2班 PL、気象係チーフ
商学部商学科
出身地：東京都
國學院高校



柿原 匡佑
1班 PL、装備・手白係チーフ
政治経済学部政治学科
出身地：福岡県
福岡県立三池高校



北条 豪一
1班 SL、衛生係チーフ
総合数理学部現象数理学科
出身地：東京都
都立小山台高校



小島 桃李
1班 SL、衛生・手白係チーフ
法学部法律学科
出身地：茨城県
江戸川学園取手高校



星 與志也
4班 PL、編集・手白係チーフ
理工学部情報科学科
出身地：東京都
都立小山台高校



藤巻 日向子
4班 SL、広報係チーフ
政治経済学部政治学科
出身地：埼玉県
淑徳与野高校



木皿 京太郎
3班 SL、装備係チーフ
法学部法律学科
出身地：茨城県
茨城県立土浦第二高校

新主将挨拶

杉井 一毅

この度、平成31年度主将となりました杉井一毅です。ワンダーフォーゲル部がより良い部となるよう誠心誠意努めていく所存でございます。1年間、ご指導ご支援のほどよろしくお願い致します。

さて、今年度の部の方針ですが、「安全登山の遵守」「メリハリのある活動」「活動参加の徹底」の3点を基本方針として決定致しました。昨年度は大きな事故なく1年を終えることが出来ましたが、一昨年度夏合宿中の九州・傾山での滑落事故等過去に事故が起きていることもまた事実であります。そのため、昨年度から引き続きではありますが、合宿毎にトレーニングと合わせて衛生に関する講習を行い、基本技術の徹底に努めています。また、過去の事故やアクシデントの事例について、部員に紹介するだけでなく、当事者と仮定して考えさせるようなケーススタディも行っていく予定です。現在の部員の多くが一昨年のことを良く知る者であり、安全意識は高いと考えておりますが、今後もより一層の安全登山の体制を築いていきたいと思えます。

主将としては、諸々の活動について考えさせられる日々が続いております。まだ、主将を拝命してから2か月余りではありますが、部内の秩序や活動の魅力・求心力、自身の

リーダーとしての在り方、(私事ではありますが)就職活動等悩むことは多くあります。また、今年の主務が生田キャンパス所属の為、自分自身も含めた執行部の仕事の分担等も例年とは異なり手探り状態が続いています。他人の仕事を管理しつつ、自身を管理することの難しさにふれることが出来ることは、主将



ならではの学びの場と考え精進したいと思えます。

話は変わりますが、先日、長峰部長先生に感謝する会が行われました。ご遠方からのOB・OG様方のご参加も含めまして、多くの方にご臨席頂きまして大変ありがとうございました。企画・運営に携わって頂き、多くのご指導とご協力下さったOBの方々にも、この場を借りて現役を代表して感謝申し上げます。何より、長峰部長先生・高橋副部長先生に喜んで頂けたようで胸をなでおろす気持ちです。

今年度は、春合宿で関西・中京方面、夏合宿で北海道等遠征する予定です。是非、各地方で現役とOB・OG様方との交流があればと思います。今後とも、我々現役部員をどうぞよろしくお願い致します。

年間行事予定

平成30年	10月	ワーク合宿(済)
	11月	秋合宿(済)
平成31年	2月	スキー合宿
	3月	春合宿
	4月	新人歓迎W
	5月	新人養成W
	7月	初夏W
	8月	夏合宿(北海道)
	9月	正部員養成W リーダー養成W

平成31年度現役指導スタッフ紹介

●部長…高橋 信勝

●監督…諏訪本充弘(75)

●コーチ…井上 堅一(106)

諏訪部貴亮(128)

濱口小百合(127)

現役部員数

準OB 14名(男13名 女1名)

4年 13名(男12名 女1名)

3年 12名(男9名 女3名)

2年 15名(男14名 女1名)

合計 54名

平成30年度卒業生歓送迎会のお知らせ

日時…平成31年2月23日(土) 12:30～15:00

会場…岸本・宮城ホール(明治大学リビティタワー23階)

受付開始…12:00

会費…4,000円

■小屋を利用したい方へ

左記の現役小屋係まで連絡願います。

○奥鬼怒山荘(手白小屋)

柿原 匡佑 090-4844-6228

○針生山荘(針生小屋)

杉井 一毅 080-3619-1907

■主務連絡先

青柳 晃太 080-6899-4606

zwangeru@gmail.com

■投稿募集のご案内

日頃ご愛読いただき、誠にありがとうございます。
薫風では幅広い世代の皆様から投稿を募集しています。

【テーマは問いません】

山やワンデルングにまつわるお話などに囚われず、皆様の身近な話題や趣味のお話から、野球、ラグビー、駅伝といったスポーツなどへの思い入れなど、何でも構いませんので、もしご投稿願います。

【投稿のスタイルも問いません】

紙面の都合がありますので、文章であれば原稿用紙3枚程度にまとめたいただけると助かります。また、一部のページをカラー化しており、例えばインスタグラムのような写真がメインとなるご投稿でも構いません。お写真に簡単なコメントを付けていただいても大歓迎ですので、よろしく願います。

【広告も募集しています】

現在は同期会の協賛広告や自営業の方のPR広告などにご利用いただいておりますが、例えば地方在住で観光業に携わっている方や、通信販売で商品販売をされている方からの販促広告なども掲載させていただきます。

1段 10,000円	
3段 20,000円	2段 15,000円

【応募先について】

次号(第59号)掲載分

締切…6月29日(土)

送付先…巻末に記載の各編集委員または左記担当者

BN 879 井上 稔也

住所…〒176-0022 東京都練馬区向山4-12-16

電話…070-5466-11521

メール…maromaro.maron8@gmail.com

※Faxでの送付を希望の方は送信先をお知らせします。右記電話またはメールにご一報ください。

ショートメールでもOKです。

■会員情報の連絡先のご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部宛にメールまたはファックスで送信していただくか、あるいは直接担当者までご連絡願います。

総務部アドレス:soumu@natamekai.org

ファックス:03-5539-4245

小田野 義之(77)

住所…〒343-0021 埼玉県越谷市大林28-14

電話…090-12439-13463

メール:y888odano@docomo.ne.jp

訃報

BN 456 細矢正敏OBが平成30年10月6日にご逝去されました。

BN 467 市川嘉紀OBが平成31年1月4日にご逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。



運営委員会の模様

■なため会運営委員の募集

なため会では会の運営に携わっていただける方（運営委員、各部会員）を募集しています。ご希望の方は幹事長までメールまたは携帯電話でご連絡ください。

幹事長 猪狩 稔(835)

電話：090-3903-7312

メール：m.igari@taiyukkai.co.jp

上原誠法律事務所のご案内

平成5年度卒 BN 1115 上原 誠

<事務所所在地>

上原誠法律事務所

〒101-0051

東京都千代田神田神保町1-7 日本文芸社ビル7階

TEL 03-3518-9750 FAX 03-3518-9760

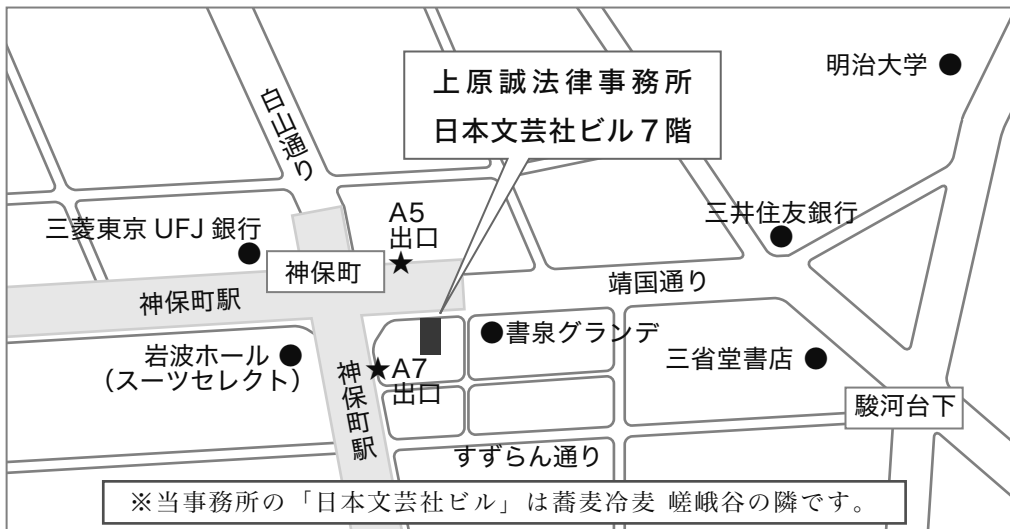
HP <http://uehara-law.com>

E-mail uehara@uehara-law.com

<交通案内>

○東京メトロ・都営地下鉄神保町駅A7/A5出口より徒歩1分

○JR御茶ノ水駅より徒歩7分





寒中お見舞い申し上げます

昭和 39 年度卒業 山久会

「編集後記」

BN 879 井上 稔也

この冬、訳あって23年間住み慣れた埼玉の片田舎を離れ、23区内に居を移しました。久々の引越でしたが、片づけても片付けても出てくる積年の残骸というか、子育てまっしぐらの時代の遺物に埋もれ、断捨離と粋がつてみても口で言うほど事は進まず、腰に不安を抱える我が身の劣化も相まって、結構綱渡りの一大イベントと成りました。

ところで、都心が近くなったので生活が便利になるかと思っていました。普段の買い物などは店が狭くて品揃えが少ないせいか、意外と不便を感じています。旧居は中途半端な田舎だったので、ちよつと行けばショッピングモールのような大型店が幾つもあり、通勤時間を除けば暮らすのに何ら不都合は感じませんでした。

それはともかく、せつかくの機会ですから、ここから本当の意味で断捨離を敢行し、今後思い描くライフスタイルに必要なものだけを取捨選択しながら、少しずつ削ぎ落していく生活に切り替えて行きたい思います。

発行日 平成三十一年一月

編集 鈴木康弘 一色雅男 池上勝彦

石井克太 住田孔一 猪狩 稔

加藤章一 井上稔也 日暮浩美

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社